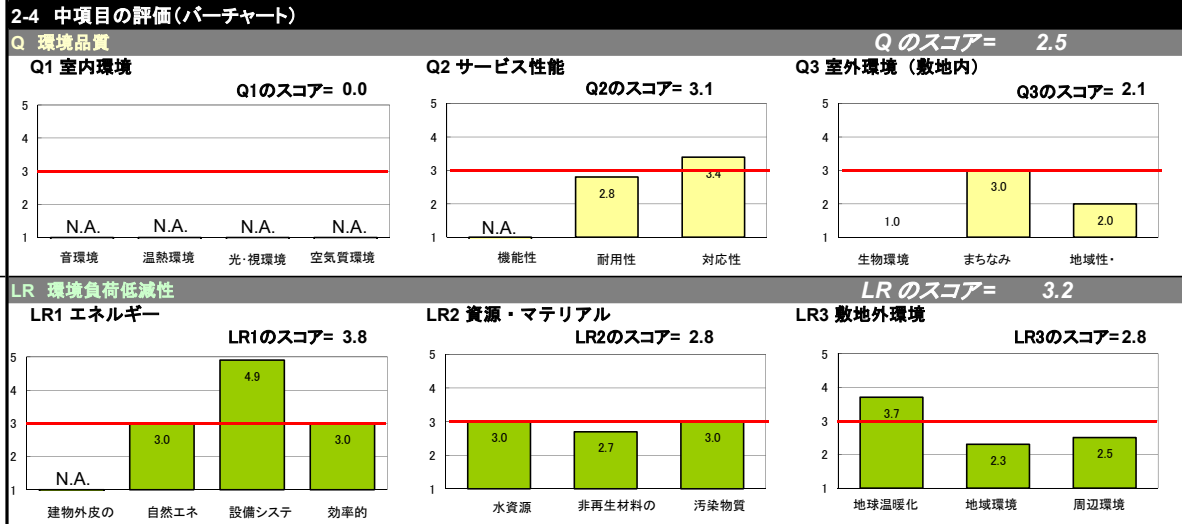
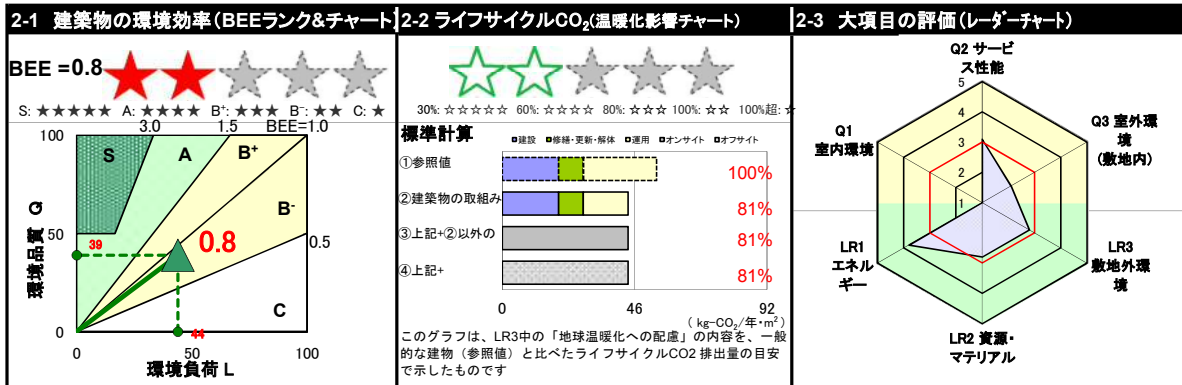


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ニノミヤ仕上げ工場建設工事	階数	地上2階
建設地	愛知県西尾市横手町川東新田61-5	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2018年2月15日
敷地面積	3,034 m <sup>2</sup>	作成者	榊原幹人
建築面積	1,703 m <sup>2</sup>	確認日	2018年2月15日
延床面積	2,728 m <sup>2</sup>	確認者	榊原幹人



### 3 重点項目

<h4>① 地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③ 敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.5 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>② 資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④ 地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ② 資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③ 敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部			建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

独自

天井高2.7m以上です。

②

②

<b>3 対応性・更新性</b>				3.4	0.48				3.4	
3.1 空間のゆとり		②	階高3.9m以上です。 壁長さ比率0.1以上0.3未満です。	4.6	0.31					
1 階高のゆとり				5.0	0.60					
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31					
3.3 設備の更新性				3.0	0.38					
1 空調配管の更新性				3.0	0.17					
2 給排水管の更新性				3.0	0.17					
3 電気配線の更新性				3.0	0.11					
4 通信配線の更新性				3.0	0.11					
5 設備機器の更新性				3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57				2.1	
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30				2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50					
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2	
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI:0.61	4.9	0.43				4.9	
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00					
4.1 モニタリング				3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				3.0	0.50					
集合住宅の評価					-					
4.1 モニタリング					-					
4.2 運用管理体制					-					
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				2.8	
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0	
1.1 節水				3.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63				2.7	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05					
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		独自	LGS+PBIにして再利用向上へ取り組んでいます。	4.0	0.24					
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68					
1 消火剤					-					
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00					
3 冷媒					-					
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				2.8	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCo2排出率が一般的な建物と同等以上です。	3.7	0.33				3.7	
2 地域環境への配慮				2.3	0.33				2.3	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25					
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33				2.5	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40					
1 騒音		独自		3.0	0.33					
2 振動		独自		3.0	0.33					
3 悪臭				3.0	0.33					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40					
1 風害の抑制				1.0	0.70					
2 砂塵の抑制				3.0	-					
3 日照障害の抑制				3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				3.7	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策がされています。	4.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

**重点項目スコアシート**

(株)ニノミヤ仕上げ工場建設工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:10.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)ニノミヤ仕上げ工場建

計画上の配慮事項	
総合	・一次エネルギー結果において省エネ基準を満たし、高効率の設備の利用により省エネを図っています。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	・天井高の高い開放感のある空間を設定しています。
Q3 室外環境(敷地内)	・緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮しています。
LR1 エネルギー	・設備に関してBEI=0.61とし、高効率設備の導入し、環境負荷への配慮をしています。
LR2 資源・マテリアル	・LGS+PBにして再利用向上へ取り組んでいます。
LR3 敷地外環境	・十分な駐車場、駐輪場を設けています。また、近辺が渋滞しないような設計となっています。
その他	